

## ジェネリック医薬品



### 【ジェネリック医薬品とは】

TVコマーシャルや新聞等でご存知のように、「ジェネリック医薬品」とは新薬の特許が終了した後に、国の承認を得て製造・販売されている医薬品のことです。新薬（先発医薬品）に対して「後発医薬品」とも呼ばれています。有効成分名＝一般名（generic name）であることから「ジェネリック医薬品」と呼ばれるようになったと言われています。新薬と同じ有効成分・同じ効き目を持っていながら、お薬の値段を低く抑えることができる医薬品なのです（添加物などは異なることもあり）

### 【品質】

海外では広く普及していますが、日本ではいろいろな事情により、普及が進んでいません。その事情のひとつに「品質に対する心配」があげられますが、それを払拭するために、国の機関も動きを示しています。

昨年末に札幌市内にて「ジェネリック医薬品の理解促進と問題点」というシンポジウムが開催され、この中で当院薬剤部の井関 健 部長は「国立医薬品食品衛生研究所（ジェネリック医薬品品質情報検討会）」の活動を説明しています。上記の検討会では、品質の問題点についての試験や検査を実施し、話し合いを行うことで多くの指針を示しています。必要に応じて厚生労働省に報告をしています。このような専門家からの情報も参考にしながら、私たち医療者は積極的な調査を行い、情報を評価しながら品質に対する心配を払拭しようと努力しています（写真1）。



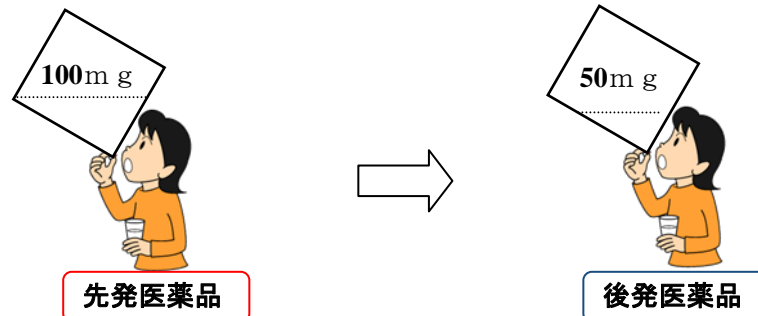
(写真1)

### 【北海道大学病院では】

ジェネリック医薬品は、当院でも専門の検討委員会が定期的に行われ、慎重に検討をしたうえで採用を決めています。

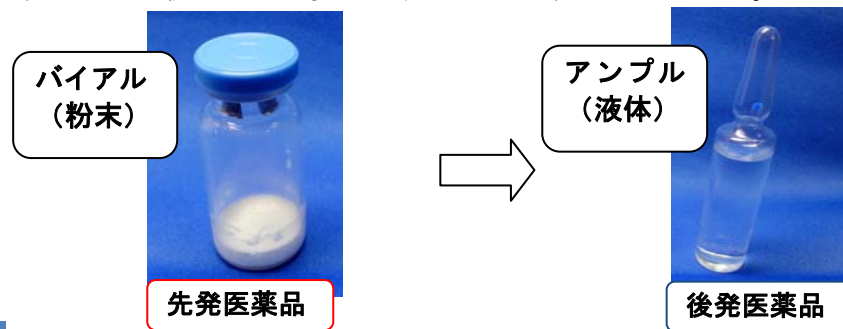
### ☆当院で採用された顆粒剤の例：「患者さんにメリット」

同じ効果ですが、1回に飲む量が半分（100mg→50mg）になった顆粒剤。  
→ 顆粒の量が半分になったことで、服用が少し楽になりました。



### ☆当院で採用された注射剤の例：「医療者側にメリット」

バイアル（粉末）がアンプル（液体）に変更になり、粉末の薬を溶かす必要がなくなりました。その結果、薬液の調製が簡便・正確・清潔になり、患者さんへの投与がより安全に行われるようになりました。



## Staff Interview

薬剤師 高村 茂生



薬剤部調剤室にて勤務している高村茂生と申します。昨年7月より当院薬剤部に赴任し、主業務として入院外来調剤、持参薬識別業務を行っております。前職場では妊婦・授乳婦の患者さんへの服薬カウンセリング業務などを行っておりました。これらの経験を生かし、当院においても積極的にチーム医療に貢献していきたいと考えています。